

中分ワイヤロープ(WR) 補修工 作業手順

2019.3.8

内 容	留 意 事 項	危険性・有害性の洗い出し	重篤度	可能性の 度合	リスク評 価	優先度	リスク低減措置
準備工 作業打ち合わせ(KY活動) 作業内容、人員の確認 保護具の点検 使用機械、資材、工具の点検(クレーンワイヤー部異常有無)	安全品質作業指示書による指示書の内容確認						
損傷支柱撤去 ・WRから外れた支柱をサヤ管から抜き撤去する。 ・上記以外の支柱はユニック、人力にて最上段のWRから1本づつ支柱から外し撤去する。	手元注意で作業を行う。 ユニックでの吊り上げは最小限で作業する。(テンションを掛けすぎない) 外した支柱は、現場内の邪魔にならない箇所に整理整頓し、まとめて置く。	WRを外すときに跳ね返ってケガをする	2	2	4	II	支柱を引き抜くときは近づかない
支柱設置 ・サヤ管に支柱を差し込む。 ・サヤ管に支柱を差し込む。最下段のWRから1本づつユニックで吊り上げ、支柱に通す。 ・スぺーサー、ストラップ、キャップ等を適宜取り付ける。	手元注意で作業を行う。 ユニックでの吊り上げは最小限で作業する。(テンションを掛けすぎない) 1回の吊り上げで支柱3本分程度	WRを通すとき指をはさむ	2	2	4	II	保護手袋着用。
WR張力の確認 ・テンションメーターにて張力の確認を行う。	ワイヤロープとテンションメーターの間で手をはさまないよう注意 ※張力は気温を測定し、管理表に定められた張力を確認。	測定時に指をはさむ	1	2	3	II	保護手袋着用。
WRの緊張 ・緊張が必要な場合、直近のターンバックル設置箇所で緊張する ・工具を用いてターンバックルを締め込み、張力を上げる。	テンションメーターで張力管理 ※張力は気温を測定し、管理表に定められた張力まで緊張する。						
発生材の片付け 整理整頓された、発生材をトラックに積み込む。	クレーン等の作業半径内は十分注意し、有資格者による作業を行う。 吊り荷の下へは絶対に入らない。	発生材を車両にクレーンで積むとき荷崩れし下敷きになる	4	1	5	III	吊り荷の下には絶対入らない
後片付け 使用した道具、機材、余った材料を片付け、最後に竹ぼうきで清掃する。 終礼の実施	使用した道具、材料等忘れ物が無いように確認する。						

注意事項

機械作業は、有資格者が操作を行う。
 支柱等重量物は、足などへの落下に十分注意をする。
 取り外しの時は、特に方向、跳ねに注意をし必ず声を掛ける。
 吊り荷の下へは絶対に入らない。
 重量物を持つ場合は、姿勢に充分注意をし無理をしない。
 日頃から、クレーンワイヤーの乱巻防止に努める。過荷重と巻き取り方法注意。
 クレーン等の機械故障時は、基本的に使用禁止とする。代替え機械にて対応。

表-7 ワイヤロープ張力管理表

気温(℃)	管理張力(kN)	
	Am種・Bm種	LD種
-10	29	19
-5	28	18
0	26	16
5	25	15
10	23	13
15	22	12
20	20	10
25	18	8
30	17	7
35	15	5

・張力は気温を測定し、張力管理表に定められた張力までワイヤロープを緊張する。気温が表に示す数値の間にある場合は、上方の数値を使用する。例えば、気温 7℃の場合は 10℃の張力を採用する。